



# COSMORAMA

NGU NEWS

78

2007 November



Culture & Human Resources

NAGOYA GAKUIN UNIVERSITY

## CONTENTS

### Interview

- 1 活躍するNGU生  
佐井祐里奈 木下友貴

### Topics

- 2 文部科学省GP選定特集  
三井 哲 名城邦夫
- 4 地域連携センター始動  
名城邦夫
- 5 人間健康学部  
米国ワシントン大学  
医学部での研修留学  
山本 親

### Essay

- 6 シリーズ②エッセイ  
新しい国際交流を目指しながら  
和田幸子

### My lecture diary

- 7 私の講義日誌⑩  
濱 満久

### Recruit

- 8 パブルを凌ぐ過去最高の求人総数の中、  
学生の大手志向が強まる。

### Campus Now

- 9 2007年度 父母懇談会を終えて  
2007年度学部長表彰式が  
執り行われました
- 10 2007年度 父母会総会開催
- 11 2006年度決算

### Information

- 12 充実の施設  
～瀬戸キャンパス 人間健康学部～  
大学祭 盛大に開催  
第10回高校生英語  
スピーチコンテストを開催  
TOEFL Committee of Examiners の  
一員に  
現代GP選定記念シンポジウムを開催  
2007年度 新任者紹介  
行事予定  
(2007年11月～2008年3月)

### COSMORAMA (コスモラマ) の由来

「宇宙」や「世界」を表わすCOSMOS(コスモス)とPANORAMA(パノラマ)との合成語。19世紀にロンドンの街角でしばしば行なわれた世界各地の様子をのぞきみせるショーの名称として使われたのが最初。世界の動きに興味を持ち、大きな視点に立ってそれを見渡すことができるようにとNGU NEWSの愛称に採用しました。

# 活躍するNGU生

今春入学されたお二人にお話をうかがいました

外国語学部英米語学科1年の佐井祐里奈さんは、第1回GyaO局アナ公開オーディションでグランプリを受賞されました。GyaO局アナウンサーとして1年間専属契約し、媒体に出演されます。



## PROFILE

佐井祐里奈さん  
外国語学部英米語学科1年

現在アナウンサーとしてどのような活動をされていますか。

週末は収録のために東京に通っています。GyaOのオススメ番組の紹介や、「第2回ギャオーディション」のMCをしています。

活動を通じてたくさんの人に出会える事は魅力です。たくさん素敵な方に出会い、話を聞くことで、すごく刺激されます。また、短いCMでもたくさんさんの時間をかけ、たくさんの方が関わっていて、完成し放送されているのを見た時には本当に嬉しくてやがいを感じます。

大学生活との両立は大変でしょうが、

## Interview

なにか工夫していることや気をつけていることはありますか。

課題は全てその日のうちに終わらせます。風邪をひかないなど体調管理にも気をつけています。

英米語学科で学ぶことを将来どのように活かしていきたいですか。

将来の目標をお聞かせください。  
大学では会話やライティング・リーディングなど総合的な英語力向上のための勉強をしています。将来はもっと英語力をつけて海外のアーティストをインタビューしてみたいです。

今の目標は地上波にのること、将来はフリーアナウンサーとして幅広く活躍したいです！

外国語学部国際文化協力学科1年の  
木下友貴さんは、全国から出演依頼のある  
大道芸パフォーマンスのプロとして活躍、  
今年でデビュー3年目です。

PROFILE

きのした ゆうき  
木下友貴さん  
外国語学部国際文化協力学科1年



大道芸を始めたきっかけはなんですか。

きっかけは、テレビ番組の「ジャグラー王選手権」で優勝した芸人さんが言った『まずはミカンのお手玉から始めよう!!』の一言でした。

大道芸にはどんなものがありますか。

古い時代から行われてきたバナナの叩き売りやガマの油売り、西洋のお手玉と言われるジャグリングや、パントマイムなど、大道芸には様々なジャンルがあります。ものすごく細かい芸から、サーカスでしかやれないような大掛かりなものまでいろいろです。

僕のパフォーマンスはジャグリング主体の構成ですが、技よりも喋りの方を重視していますので…一番得意なのはアドリブトークと即興コメディですね！

大道芸の魅力はなんでしょう。

大道芸は、ステージがなくお客様と同じ目線でパフォーマンスをすることが出来るので、他の演芸に比べてお客様との掛け合いや触れ合いがとても多いのです。

“お客様と一緒にあって、1つのショーを作り上げる”という感覚がすごく好きです!! パフォーマンスが終わって「楽しかった」とか「頑張ってたね」という言葉をかけて頂いた時や、ファンレターを頂いた時、僕のトークで泣き笑いしているお客様に出会うと、やっていてよかったなと感じます。

将来の目標をお聞かせください。

大学では、異文化・異民族問題を現実的に解決する能力を身につけるための勉強をしています。授業中もショーの構成や小ネタを考えて一人で笑ったりしていますが…。

将来は、僕のこれまでの経験を活かせる仕事に就きたいと思っています！



ありがとうございます。活躍されているお二人、今後も将来の目標に向かってNGUで大いに学び、邁進してください。

# 文部科学省GP選定特集

## 2年連続・通算3つ GPプログラムに選定

2007年度文部科学省〈学生支援GP〉(現代GP)に、本学の取組が選定されました。  
2006年度(特色GP)に選定された経済学部の取組「ITによる経済学部教育の標準化と質保証」とあわせて3つの取組が評価されています。

文部科学省・新たな社会的ニーズに対応した  
学生支援プログラム(学生支援GP)

## 自分発見型学生支援ネットの構築に向けて



商学部教授  
キャリアセンター長  
みつゐ 三井 哲

ン支援システムであるCCSを活用して、「学生が自分を理解し、自分の将来を見定めて自分の課題を克服しようとする自分を発見」するために必要な支援・ケアを提供する「自分発見型学生支援ネットワーク」を築こうとするものです。

今日の大学では、将来の進路に対して明確な意識をもつ早熟な(意欲のある)学生と、そうでない未成熟な(意欲の弱い)学生という「二極化」が目立ってきました。そして、このことが、学生のニーズに応じたより効果的な「学生支援」を提供していく上で、キャリアセンターのみならず、全学的に大きな問題となっています。

今回の取り組みは、「キャリアデザイン(3年生以上は能力開発総合講座)」という1年時から実施しているキャリア形成支援の場を土台に、全学的なコミュニケーション

具体的な方策としては、①「キャリアデザイン」「基礎演習」の副教材としての「NGU自分発見ノート」の開発と活用、②早熟、未成熟といった学生の意識のレベルに応じたレベルアップのためのプログラムの提供、③夏休みなどを利用して、得意分野の強化、不得意分野の克服などを目指して合宿形式で実施する追加授業「自分発見キャンプ」などを計画しています。

また、こうした「学生支援」ネットを築くにあたっては、従来からの学生支援システム、およびこれに新たなプログラムを追加してそれらとも連携していくことで、より効果を高めることができます。その一例と

文部科学省・現代的教育ニーズ  
取組支援プログラム(現代GP)

## 「地域創成プログラム」の実践



経済学部教授  
地域連携センター長  
なしろ 名城 邦夫

礎力を向上させ、より高度な実践教育モデルの構築を企図するものです。

具体的には名古屋キャンパスのある日比野商店街に学生の運営による店舗を構えて、地域の人々との交流と商店街活性化を目指す実践活動を推進します。授業では熱田を中心とする地域の歴史や現状の学習を通して、堀川・学生ツアーガイドの育成や観光マップ作成に取り組みます。最終的に学内外での実践的活動を通して、熱田を中心とする名古屋地域のまちづくり活動のコーディネーターとしての能力を養うことを目標としています。

経済学部の教育プログラム「地域創成プログラム」の実践―「もの・まちづくり」をテーマとした地域間交流へ―が2007年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに選定されました。このプログラムは名古屋キャンパスへの移転を機に、これまで瀬戸において展開してきた実践的な教育活動を名古屋の地においても展開することを目指しています。その際、両拠点地域の活性化にとどまらず、両地域間の交流を企画促進することによって学生の問題解決能力を養い、社会人基

また、陶磁器の生産地・消費地の関係にある瀬戸市と名古屋市において、授業や学生の社会貢献活動の展開を通してこれまでない学生・市民の交流を促進し、新たな地域間交流活動を展開します。かつて近世江戸期において、藩当局の保護と支援によって発展した陶磁器産業は、明

### GPとは

文部科学省では、大学等が実施する教育改革の取組の中から、優れたものを選び、支援・情報提供を行っています。この「優れた取組」を「Good Practice」と呼び、略して、「GP」と呼んでいます。

Topics

## 「自分発見型」学生支援ネット

本学独自のCCSを活用して、教職員一体となったきめ細かいサポートを実現します。



### キャンパスコミュニケーションシステム (CCS) とは

学生・教員・職員間で、ネットワークを活用した教育・学習支援を行うための本学独自のシステム。学生は、パソコン(全学生に無償配付)または携帯電話を通じて、インターネット上に用意された個人のポータルサイトから必要な情報にアクセスできます。

して、学生サポートセンターに、「自分の「居場所」を発見できない学生や「弱い自分」を発見してとまどう学生たちが集いやすい場を作ったり、外部からスピリチュアルケアの専門家を招いて少人数単位でワークショップを開くことを考えています。また、自分発見・海外インターンシップと題して、自分発見とキャリア形成の機会を海外に広げること考えています。

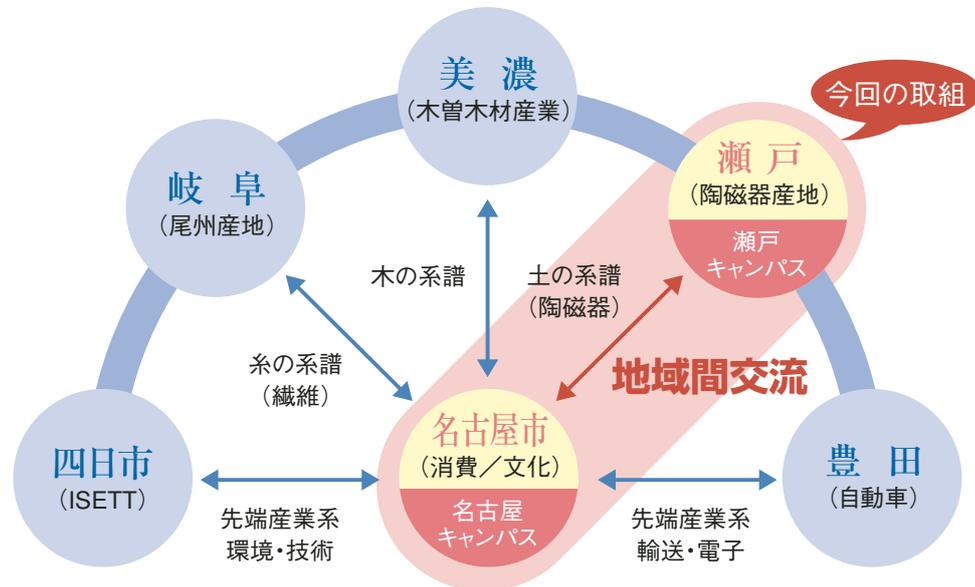
こうした計画に対し、文科省からは「こ

の取組は基本的にはキャリア支援であるが、動機や背景は明確で、趣旨・目的は十分に意義があり、他に見られない工夫ある取組であると言える。特に、「早熟」「未成熟」と二極化した学生を対象として多層的に行おうとしている点において新規性があり、これを支える組織体制やCCSの上にも有効に機能することが期待され、他の大学等の参考となる優れた取組である」と評価されました。

## 地域創成プログラムとは

- 地域社会と協働するよき市民、よきビジネスパーソンの育成を目指し、これまで愛知県瀬戸市でのまちづくり活動で実績をあげてきました。
- 本学キャンパスのある瀬戸市と名古屋市を対象に、「ものづくり」というテーマで実践し、地域の再生と交流を実現します。
- 授業と連動した主な事業として、商店街活性化(アンテナショップ運営)や地域間交流(陶街道交流フェスティバル)などをおこないます。

### 名古屋大都市圏における「もの・まちづくり」事業の背景と全体像



治維新以後名古屋資本による技術革新を受け入れ、いち早く近代陶磁器業を展開するに至り、戦後は名古屋の商社を通し世界市場に進出していったという経緯があります。このような瀬戸と名古屋の歴史的結びつきを基礎に現代の新たな交流の可能性を模索し、もの・まちづくりの側面から学生と市民による地域間交流モデルの構築を目指してまいります。



陶製の携帯アクセサリ「赤津七釉セット」。学生たちの手作りであり瀬戸「マイルポスト」のヒット商品。



# Topics

人間健康学部が設置されて2年目、学部として国際交流を進める上で、先進国の医療事情視察を主たる目的として今回の企画を行った。ミシシッピ川上流、セントルイスにあるワシントン大学医学部教授 [O.Hollovsky] に留学の研修先として受け入れていただいた。この大学の医学部は、ノーベル賞受賞者を十数名輩出している名門である。今回は、Hollovsky 教授のほか「Institute for Rehabilitation, Dr. Susan Deusinger (理学療法士の責任者)」「Dr. Carolyn Baum (作業療法士の責任者)」にご協力いただいた。

研修内容は、PT (理学療法) や OT (作業療法) の概要に関する講義からはじまり、PT の実習の授業に参加したり、様々なスポーツ生理学やリハビリに関する研究所、療育施設等を見学したりするものであった。初めて体験するアメリカの大学の授業や、PT・OT に関する施設に学生は戸惑いと驚きの表情であったが、3日目くらいにはアメリカの学生に溶け込み、一緒に実習を体験していた姿は印象的

## 人間健康学部

# 米国ワシントン大学 医学部での研修留学

2007.8.31～9.13

人間健康学部教授 人間健康学科長  
やまもと ちかし  
山本 親



であった。ここでは、PTもOTも大学院の設定で、学生は修士や博士を目指していた。私達18名のために特別に20分程度の講座もいくつか準備されていた。また、講義ばかりでなく4回のランチと1回の夕食に招待という交流の時間もあり、アメリカの学生と食事をしながら十分に話す時間が得られ、この研修で学生が一番楽しいと感じた時であろう。また、NORCという高齢者の自立を促進する福祉施設を訪問し、平均年齢85歳の方々と様々な意見交換をする中で、アメリカと日本の高齢者福祉の在り方の違いについて深く考えさせられた。

3回渡航し研修の調整を行ったせいも、ワシントン大学の対応は素晴らしく、豊富なメニューと内容の濃さには同行された平野先生も非常に驚いてみえた。他学部と違い単位認定は無いが、留学を通して学ぶことの多さ、学生の学ぶ姿勢の積極さ、取り組みの真剣さを見ると、次年度以降の継続の必要性を痛感した。



# 地域連携センター始動

## 名古屋市と地域連携協定を締結 熱田区民まつりに参加

経済学部教授  
地域連携センター長  
なしら くにお

名城 邦夫

地域連携センターでは10月1日に名古屋市との間で地域連携協定を締結し、大学と名古屋市はまちづくりや、よりよい社会の建設のために協力していくことになりました。本協定に基づく最初の試みとして熱田区民まつりに本学が参加し、さまざまな協力を行いました。当日はテントを設営し、地域連携センター長始め、総合政策部長や職員が常駐し、市民との交流に努めました。特筆すべきは、学生が50名ほどボランティアとして参加し、そのうち20名は堀川遊覧船ツアーガイドとして3時間に及ぶツアーの説明を行った

## Topics



ことです。彼らは、授業で堀川の由来や周辺の歴史を学習、それぞれ思い思いに工夫し、シナリオをメモ書きしたガイドブックを携えてガイドをし、市民の間から楽しかったとの評判を得ました。また一人の学生はプロはだしのジャグリングやバランス芸を行うパフォーマンスを会場内で披露し、大きな拍手を受けていました。ほかに30名ほどの学生が周辺警備や会場整理等で活躍し、熱田区から大変評価され感謝されました。

名古屋市長の大学に対する期待も大きく、区民



まつりの市長挨拶では大学との連携協定の意義を強調され、今後は名古屋市のまちづくりや地域の活性化は学生の社会貢献や大学の持つ知的資産の活用なしには実現できないとまでおっしゃっていただきました。これには学長はじめ一同感激し、大いに意を強くした次第です。区民まつりへの参加をはじめ今後とも熱田区のみならず、名古屋市の様々なイベントに参加し、地域貢献活動を担っていきたいと考えています。みなさまのご理解とご支援を切に希望します。



熱田区民まつり  
Photo  
堀川遊覧船ツアーガイドや会場内で、たくさんのNGU生たちが活躍しました。



# Essay 28

## 新しい国際交流を 目指しながら

外国語学部教授  
和田幸子



大きく広がる積乱雲が南国特有の甘い風の香りを運んでくると決まると猛烈なスコールがやってくる。今年もやはりルソン島の夏はダイナミックに始まった。

その日私は、マニラから数十キロ離れたフィリピン・パンガ州、旧クラーク米軍基地から程近い平原の中で、天を仰いでスツと建つ3棟の巨大な塔の下にいた。「バターン死の行進」\*の犠牲になった二万七千人余りの一人一人の名が刻み込まれた墓碑がこの慰霊碑を取り囲み、厳かな気品を漂わせている。「二度とこうした悲惨な戦争は行わない」という三カ国の「平和への祈り」を込めた慰霊碑である。

パンガ州には、もう一つ、決して忘れてはならない場所がある。それは、ここから飛び立った「神風特攻隊」がタクロバン沖で「敵艦船に体当たり成功」を最初に敢行したとされるマバラカット空軍基地跡である。地元の人々が

「カミカゼメモリアルパーク」と呼ぶささやかな公園には、ぼつんと旧日本軍の特攻隊の銅像が建っている。同行した若者たちの屈託の無い顔を見ながら、「彼らの将来が決してこうした暴挙に脅かされる事がないように」と願わずにはいられなかった。「ここは神風特別攻撃隊のような不幸な出来事を二度と繰り返さない」と誓う場所であり、平和とすべての犠牲者に安らかに眠りくださいと祈念する場所である」と碑文は日本語でも書いてあった。

フィリピンでは、こうした悲しくも恥ずべき戦争の傷跡に出くわし愕然とさせられる事が多い。否、フィリピンばかりでなく、アジア各地同じような言葉を聞くのである。「許してあげましょう。でも、私たちは決して忘れはしません!」と。

今年の夏、私たちはフィリピンで有機農業を営む農村で、一緒に稲刈りや野菜の植え替えに汗を流した。日本の若者もフィリピンの若者も、いえ、子供も大人もお母ちゃんたちもみんなで一緒に歌を歌い、踊り、バスケットボールの試合に興じ、田圃を駆け廻った。泥にまみれながらの三日間は、互いに相手を思い、心温まる触れ合いの時間となった。「また行きたい」「もつともつと話したい」「言葉の大切さを知った!」という学生諸君は、きつとお互いを信じ合える未来を切り開くことができるだろう。新しい国際交流への道を築けるだろうと期待しながら、秋のキャンパスに戻ったのである。



「バターン死の行進」の慰霊碑



村の小学校で



村人との話し合い



旧日本軍「神風特攻隊基地跡」で

\*  
バターン死の行進とは、昭和17年(1942年)4月に米比軍の捕虜約8万5000人をルソン島のバターン半島マリベレスからサンフェルナンドまで60kmを徒歩で行軍させ、アメリカ軍1,200人、フィリピン軍16,000人の犠牲者を出した事件である。他方、敗戦時に投降した日本兵約20万人の約1割は報復的な死を余儀なくされたともいわれる。(「お前が証人だ」後藤利雄著)戦争は勝者敗者の区別なく理不尽で悲惨である。



Sibotの田圃で稲刈りの実習



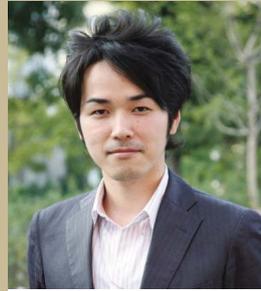
みんなニコニコ、また会いましょう!



Mangarita村でレタスを植える



## 私の講義日誌



商学部講師  
はま みつひさ  
濱 満久

vol.17

### 流通システム

現在、私は「流通システム」、「商業史」、「社会事情1」を担当しています。これら3科目に、私は共通するキーワードを設定しています。それは「『当たり前』をあらためて問う」ということ。なぜ、このようなキーワードを設定したのでしょうか。

私が思う学ぶことの面白さとは、新たな気づきに出会うことです。難問に対して、それが自分のなかで「なるほど!」と、何らかの納得につながった経験を皆さんもお持ちだと思えます。そのとき知的興奮といえるような楽しさを感じたのではないでしょ

うか。また、この「なるほど」という感覚は、自身とつての「新たな気づき」と言い換えることができると思います。

では、どうすればこの「新たな気づき」に出会うことができるでしょう。実は意外に身近なところにそれはあります。私の専門である商業論・流通論から説明しましょう。

例えば、商業者は私たちの周辺に当然のように存在しており、それを疑問に思う人はほとんどいないでしょう。ですが、少し考えるとそれほど当然なことではないのです。商業者は、例えば七百円で仕入れたものを千円とするように、最初より高価格

で私たち消費者に販売します。しかも、それは通常そのままの商品です。このために商業者は無用の長物だとされることもあります。ところが、それにもかかわらず私たち消費者は、生産者からではなく商業者から多くを購入します。なぜでしょう? こう考えると不思議ですよね。

紙幅の関係もありますので詳細は解説しませんが、以上の例からもわかるように、世の中は「新たな気づき」の宝庫だといえます。なぜならその存在を当然視していた商業者ですら、実はそれほど当然ではなかったのですから。つまり単にそのことを知っていることと「なぜ?」ということを理解することは別なのです。

このように、私は学生に当たり前をあらためて問うことで「新たな気づき」と出会い、そして学ぶことは楽しい、ということを知って欲しいと思います。ひいては、そのような宝庫のなかで生きる自身の人生すらも面白い・楽しいと感じられるようになることを願っています。そのきっかけとなるような講義を心がけています。



# バブルを凌ぐ過去最高の求人総数の中 学生の大手志向が強まる

## 本学学生の状況

2007年3月卒業生は669名が就職を希望し、ここ10年間で最高の数字となる98.7%が決定をしています。今年の4年生についても9月末現在で、就職希望者の約60%から内定報告があり、好調であった前年を上回るペースで就職が決まっています。

現在までの主な内定先は左記の通りです。業種別では、文系学生に人気の高い金融業界から、例年以上に多くの内定者がでているのが今年の特徴です。

全般的には、志望順位の高い企業から内定を得た学生が多く、昨年よりもさらに内定先に対する満足度は上がっていると考えられます。その反面、「売り手市場」と言われるための安心感から、就職活動のスタートが遅れている学生が例年より増える傾向にあります。

## 2007年度就職戦線の特徴

2007年度の就職環境は、好景気と団塊世代の大

量退職を反映して、企業の新卒採用意欲が一段と高まり、学生有利の状況になっています。

リクルートワークス社の調査によると、2008年3月卒業予定の大学生・大学院生を対象とする求人総数は前年比18%増の93.3万人となり、これまでのピークであったバブル期を上回りました。これに対して大卒等の就職希望者数は43.7万人で、求人倍率は2.14倍となり、16年ぶりに2倍を超えました。

ただし、この求人倍率を従業員規模別で比較すると、従業員1,000人以上企業の求人倍率は4.22倍に對して、1,000人以上企業の求人倍率は0.77倍と規模間で求人倍率の差が拡大し、学生の大手企業に対する志向が高くなっています。また、業種別では金融業0.39倍、サービス情報業0.72倍、製造業2.64倍、流通業7.31倍と異なり、業種間の求人倍率の差もさらに拡大しています。このように、採用数は増加して求人倍率は高くなっていますが、大手企業や学生に人気の高い業界は依然として厳しい状況にあります。

## Recruit

また、「売り手市場」と言われているだけに学生には強気の傾向があり、評価の高い学生は1社や2社から内定を得られても満足せず、より良い企業を求めて活動を続けて内定を独占していきます。その一方で、何社受けても内定を得られない学生が、志望企業のレベルを下げないためにいつまでも未内定の状態が続く、二極化現象が就職戦線の特徴になっています。

## 学生時代を有意義に過ごして自己実現を

現代の企業が求めているのは学力や専門知識だけではなく、移り変わりが激しい社会の中で環境の変化に対応ができ、自分で判断して行動できる自律型の人間です。この自律とは自己管理ができ、自らが問題を発見して解決策を導いていけることです。そして、幅広い年代の人とのコミュニケーション能力や、説得力のある論理的な考え方ができる人間が求められています。

しかし、それは就職活動の時期になって突然出来るものではありません。大多数の学生は、大学時代が社会へ巣立つ最終段階になります。将来の自分を見据えながら学生生活での目標を持ち、達成するための努力を惜しまない有意義な生活を送ることがキャリアアップ形成につながり、自己実現への大きなステップとなるでしょう。

## 2007年度就職内定企業状況

(9月26日現在)

〔建設業〕(株)熊谷組、積水ハウス(株)、(株)サンヨーハウジング名古屋、東建コーポレーション(株)、三洋ホームズ(株)

〔製造業〕イチビキ(株)、井村屋製菓(株)、カネ美食品(株)、(株)ファーストリテイリング、王子製紙(株)、アイカ工業(株)、三甲(株)、(株)トーヨータイヤジャパン、朝日インテック(株)、新日軽(株)、矢崎総業(株)、タニコー(株)、天龍製鋸(株)、東洋シャッター(株)、(株)パロマ、サンエツ金属(株)、イビデン(株)、(株)東芝テック、日東工業(株)、フタバ産業(株)、サミー(株)

〔卸売業〕クロスプラス(株)、(株)ファイブ・フォックス、万兵(株)、中部水産(株)、中日本フード(株)、(株)マルイチ産商、(株)クラヤ三星堂、シーエス薬品(株)、中北薬品(株)、花王カスタマーマーケティング(株)、山宗(株)、(株)カノークス、リコー中部(株)、三立興産(株)、杉本商事(株)、都築電産(株)、(株)東陽、(株)ナ・デックス、(株)前田製作所、明治電機工業(株)、(株)日立エイチ・ピー・エム、ナイス(株)、日本紙パルプ商事(株)、ブリヂストンタイヤ中部販売(株)、(株)あらた

〔小売業〕(株)パロー、マックスバリュ中部(株)、(株)ヤマナカ、(株)ユースタ、ユニー(株)、(株)ヨシヅヤ、青山商事(株)、あざみ(株)、(株)ジャパンビレッジ、愛知トヨタ自動車(株)、(株)ニトリ、(株)カインズ、愛眼(株)、(株)エイデン、(株)カーマ、(株)ギガス、中部薬品(株)、(株)ヤマダ電機

〔金融業〕(株)愛知銀行、(株)岐阜銀行、(株)十六銀行、(株)中京銀行、(株)富山銀行、(株)名古屋銀行、(株)百五銀行、愛知県中央信用組合、大垣信用金庫、島田信用金庫、静岡信用金庫、瀬戸信用金庫、高山信用金庫、中日信用金庫、東春信用金庫、東濃信用金庫、豊川信用金庫、豊田信用金庫、浜松信用金庫、半田信用金庫、尾西信用金庫、碧海信用金庫、愛知西農業協同組合、尾張中央農業協同組合、あいち知多農業協同組合、とびあ浜松農業協同組合、愛知東農業協同組合、伊賀北部農業協同組合、鳥羽志摩農業協同組合、みずほインベスターズ証券(株)、丸八証券(株)、東海東京証券(株)、SMBCフレンド証券(株)、そしあす証券(株)

〔不動産業〕(株)レオパレス21、住友不動産販売(株)

〔運輸・通信業〕名鉄観光サービス(株)国際貨物支店、旭運輸(株)、伊勢湾海運(株)、名港海運(株)、トランコム(株)、日本梱包運輸倉庫(株)、丸全昭和運輸(株)、(株)サカイ引越センター、ソフトバンクモバイル(株)

〔サービス業〕(株)さなる、富士ソフト(株)、トランス・コスモス(株)、(株)帝国データバンク、(株)ユーフィット、(株)ジェイアール東海ホテルズ、(株)名古屋観光ホテル、(株)日本旅行、総合警備保障(株)

〔公務員等〕警察官(愛知県、岐阜県、静岡県)、消防官(土岐市、浜松市)、日本郵政グループ

## 会場別参加状況

9月1日(土)	
岐阜会場	48名
金沢会場	30名
姫路会場	4名
9月2日(日)	
広島会場	3名
福井会場	7名
9月9日(日)	
四日市会場	35名
飯田会場	11名
浜松会場	69名
9月15日(土)	
松本会場	7名
大学会場(瀬戸)	52名
9月16日(日)	
沖縄会場	1名
多治見会場	7名
9月22日(土)	
大学会場(名古屋)	426名
<b>合 計</b>	<b>700名</b>



# 2007年度 父母懇談会を 終えて

今年度の父母懇談会は、大学会場(名古屋キャンパス)と瀬戸キャンパスおよび地方会場4ヶ所(金沢、岐阜、四日市、浜松)、小規模に実施する地方特別懇談会7ヶ所(大坂、広島、福井、飯田、松本、多治見、沖縄)を設けて開催しました。

名古屋キャンパス開設年度ということもあり、昨年度に比べて約140%増、特に大学会場は約160%増、全会場を合計して700名と多数の参加がありました。

今回の父母懇談会では、文部科学省の優れた大学教育システムに対する支援制度に本学のプログラムが採択されたことや就職活動などの近況を中心に報告させていただきました。

個人面談や成績・就職などのブースではお子様の学修状況や将来の進路といった相談が寄せられました。

また、大学会場においては新たに開設された名古屋キャンパスや一新された瀬戸キャンパスの教育施設を見学される姿も見られました。

次年度もたくさんのご参加をお待ちしております。

### 経済学部

#### 4年生

天野 翔 伊 日奉 大橋 成仁 金森 直道 川口真有美 住田 一浩 戸田 伸  
長尾 佳祐 中村 晋 西尾 あさ佳 日置 正康 樋口 弘二 松田 敬佳 松田 渡邊 博充

#### 3年生

大川 大輝 佐藤久仁昌 佐野 光徳 高田 悠馬 中江 宏規 中島 寛幸 中山 美香  
服部 未希 平井 洋司 古田 寿大 保坂 悠斗 水上 唯貴 水野 仁士 柳原 佑衣

#### 2年生

磯貝 賢 大田 晃暢 鬼頭 亜弓 額 亮次 小松奏子 城者 誠 須田 恭平  
高橋 知久 新田 英樹 野村 昇平 古奥 和樹 松枝美帆 三谷 昌弘 山本 賢一

### 商学部

#### 4年生

泉 和余 楠 康弘 河野 はる香 篠田 耕佑 鈴木 智江 田口 晴久 堀 裕哉  
松本 和也 安田 暁彦 吉村 拓也

#### 3年生

天野 晃司 岩下 雄大 熊谷 学 小林 栄 柴田 晋平 鈴木 剛 津田 春奈  
野原 一輝 不破 祥登 森 大樹 山内雄太郎

#### 2年生

門野 泰旭 川崎 修吾 久保田 巴 古米 哲也 柴垣 克典 高井 啓太 松山 草太  
山田 大志 山本 紗織 渡邊麻理乃

### 外国語学部

#### 4年生

井上 智晶 亀村 和弘 鈴木 亜美 中谷 友美 日和原伊吹 豊 興花

#### 3年生

加藤万梨子 川上 裕香 川見 明香 清岡 春菜 畑堀 沙織 彦坂 俊介 水野 里咲  
豊 興花

#### 2年生

大宮 早 小沢 知世 小野田尚記 尾畑 弘美 寺嶋 徳子 服部 桃子 堀内 茜

**人間健康学部** ※設置後2年のため3・4年生はいません。

#### 2年生

阿知波泰聖 井出 輝美 沖向 雄也 木村 真波 榑原 拓哉 中堀 美生 平野 里紗  
以上、100名。

## 2007年度学部長表彰式が執り行われました

〔学業成績優秀者100名を表彰〕

本学には学業・スポーツ・文化・社会活動などを通じて顕著な成果をあげた学生を表彰する制度がありますが、このうち昨年一年間の学業成績優秀者を表彰する「学部長表彰」が2007年6月13日(水)に執り行われました。(その他、年間の課外活動実績を表彰する「学生部長表彰」と4年間の正課および課外活動実績を表彰する「学長表彰」があります。)

今年度は名古屋キャンパスで学ぶ経済学部・商学部・外国語学部の学生と瀬戸キャンパスで学ぶ人間健康学部の学生がそれぞれの所属キャンパスのチャペルにおいて、同日、午後1時に表彰を受け

ました。普段は別々のキャンパスで学ぶ学生たちが時間を共有して互いに学友を称える機会となったことと思います。

表彰者へは各学部長から祝辞、表彰状と学業奨励金が授与されました。今後も学生の本分である学業を中心に充実した学生生活を送られますよう期待しています。

今年度の表彰者は左記のとおりです(五十音順)。



# 2007年度 父母会総会開催

2007年度父母会総会が、6月30日(土)名古屋キャンパス白鳥学舎で開催されました。名古屋キャンパスにおいて初めての父母会総会となったこともあり、昨年より多い282名のご父母が参加されました。総会では、岩田正男会長の開催挨拶、小嶋博学長の挨拶の後、第1号議案「2006年度決算に関する事」、第2号議案「2007年度役員改選に関する事」、第3号議案「2007年度予算に関する事」、第4号議案「父母会会計内規の改正に関する事」を審議し、すべての議案が承認されました。なお、役員改選により、大嶋稔氏を新会長に選出しました。議案終了後、経済学部講師深谷潤一による「名古屋学院大学発キャリア・デザイン」をテーマとした講演会が開催され、その後、場所を1階食堂へ移し、昼食会が催されました。昼食後は、学部長による学部別懇談コーナー、成績・学生生活・就職・留学に関する各種相談コーナー、キャンパスツアーが催され多くのご父母が参加されました。なお、2006年度決算、2007年度予算については、下記をご確認ください。

## ● 父母会費について

学費納入時に父母会年会費、特別会費の納入をお願いしております。父母会活動にご理解をいただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

### ● 年会費

すべての在学生1人当たり  
4,000円/年

### ● 特別会費

4年次生1人当たり  
5,000円

※ 父母会卒業記念事業費に充当

## 2007年度 名古屋学院大学父母会予算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで				
(単位 円)				
収入の部	科目	予算	前年度予算額	差異
会費		18,224,000	16,612,000	1,612,000
特別会費		4,375,000	4,435,000	△ 60,000
受取利息		13,000	500	12,500
記念事業積立預金繰入収入		10,625,000	0	10,625,000
前年度繰越金		20,580,056	23,398,079	△ 2,818,023
収入の部合計		53,817,056	44,445,579	9,371,477

支出の部				
科目	予算	前年度予算額	差異	摘要
学生教育活動費	[17,150,000]	[14,650,000]	[2,500,000]	
学生修学等補助	8,500,000 ※1	500,000	8,000,000	
学生行事補助	4,000,000 ※2	4,500,000	△ 500,000	
課外活動補助	4,650,000 ※3	9,650,000	△ 5,000,000	
運営費	[3,550,000]	[4,900,000]	[△ 1,350,000]	
会議費	500,000	500,000	0	役員会、総会
事務用品費	100,000	100,000	0	コピー用紙、メールシール他
備品費	400,000	400,000	0	
印刷費	150,000	150,000	0	総会開催案内関係
郵便費	1,500,000	2,250,000	△ 750,000	総会・役員会開催案内内他
慶弔費	400,000	400,000	0	学生・教職員対象
雑費	500,000	1,100,000	△ 600,000	手揚げ袋、振込手数料他
チャペル建設資金	[15,000,000]	[10,625,000]	[4,375,000]	
卒業記念事業費	4,375,000	0	4,375,000	名古屋キャンパス(以)記念事業(07年度分)
卒業記念事業費	10,625,000	10,625,000	0	名古屋キャンパス(以)記念事業(06年度積立)
予備費	[2,000,000]	[2,000,000]	[0]	
前期末未払金支払支出	[668,645]	[20,000]	[648,645]	クラブ遠征補助、父母宛成績送付代
次年度繰越金	[15,448,411]	[12,250,579]	[3,197,832]	
支出の部合計	53,817,056	44,445,579	9,371,477	

※1 学生修学等補助		※2 学生行事補助		※3 課外活動補助	
学業奨励金 (@20,000×100名)	2,000,000	体育会フレッシュマンキャンプ	500,000	クラブ備品援助	1,000,000
父母懇談会場費他	3,000,000	体育会/文化会リーダーズ研修会	1,000,000	教職員指導補助	1,500,000
父母宛成績送付	3,000,000	大学祭補助	2,500,000	クラブ遠征補助	2,000,000
資格取得奨励金 (@10,000or@5,000)	500,000	合計	4,000,000	テーピング講習会補助	150,000
合計	8,500,000	合計	4,650,000		

## 2006年度 名古屋学院大学同窓会決算書

2006年4月1日～2007年3月31日	
(単位 円)	
収入の部	決算額
前期繰越金	21,462,703
会費収入	17,260,000
	236,000
受取利息	10,170
合計	38,968,873

支出の部	
科目	決算額
人件費	1,178,500
通勤手当	108,000
交通旅費	362,960
通信費	134,959
事務用品費	70,635
什器備品費	0
慶弔費	42,130
交際接待費	110,525
会議費	516,181
卒業記念品費	2,434,245
学生活動補助費	2,751,550
広報活動費	4,366,667
情報活動費	267,755
事業費	2,183,524
支部活動費	400,880
雑費	584,055
一般積立金	5,000,000
大学協力費	393,840
予備費	0
支出合計	20,916,406
次期繰越金	18,052,467
合計	38,968,873

2007年3月31日	
(単位 円)	
資産の部	2006年度
一般積立引当特定預金	20,000,000
普通・定期預金	17,716,676
郵便貯金	4,388
郵便振替	72,015
現金	259,388
合計	38,052,467

負債の部	
科目	2006年度
負債の部	0
正味財産の部	
一般積立	20,000,000
預貯金	18,052,467
正味財産の部計	38,052,467
合計	38,052,467



# 2006年度 同窓会決算書

## 2006年度 名古屋学院大学父母会決算書

2006年4月1日から2007年3月31日まで				
(単位 円)				
収入の部	科目	予算	決算	差異
会費		16,612,000	16,352,000	260,000
特別会費		4,435,000	4,315,000	120,000
受取利息		500	12,862	△ 12,362
前年度繰越金		23,398,079	23,398,079	0
収入の部合計		44,445,579	44,077,941	367,638

支出の部				
科目	予算	決算	差異	摘要
学生教育活動費	[14,650,000]	[14,261,693]	[388,307]	
学生行事補助	4,500,000	3,884,800 ※1	615,200	
課外活動補助	9,650,000	8,197,893 ※2	1,452,107	
学生学習補助	500,000	2,179,000 ※3	△ 1,679,000	成績優秀者表彰、資格取得奨励金
運営費	[4,900,000]	[3,969,837]	[930,163]	
会議費	500,000	469,696	30,304	役員会、総会
事務用品費	100,000	18,480	81,520	メールシール、カートリッジ
備品費	400,000	310,800	89,200	生理用品自販機(4台)
印刷費	150,000	108,478	41,522	総会開催案内
郵便費	2,250,000	1,890,973 ※4	359,027	総会案内、成績送付
慶弔費	400,000	90,000	310,000	学生・教職員
雑費	1,100,000	1,081,410	18,590	振込手数料、総会記念品
卒業記念事業費積立金	[4,435,000]	[5,915,000]	△ 1,480,000	名古屋キャンパス(以)記念事業(07年度分)
予備費	[2,000,000]	[0]	[0]	※5
前期末未払金支払支出	[20,000]	[20,000]	[0]	弔慰金
期末未払金	[0]	[△ 668,645]	[668,645]	クラブ遠征補助、父母宛成績
次年度繰越金	[18,440,579]	[20,580,056]	[△ 2,139,477]	
支出の部合計	44,445,579	44,077,941	367,638	

※1 学生行事補助		※2 課外活動補助	
体育会フレッシュマンキャンプ	250,264	10クラブ特別補助	4,000,000
体育会/文化会リーダーズ研修会	1,082,561	クラブ備品補助	1,654,408
大学祭補助	2,551,975	教職員指導補助	1,173,440
合計	3,884,800	クラブ遠征補助	1,270,045
		テーピング講習会補助	100,000
		合計	8,197,893

※3 学生学習補助		※4 郵便費	
成績優秀者表彰 (@20,000×100名)	2,000,000	父母宛成績送付筒・送付	840,930
		コスモラマ封筒・発送	710,253
		総会案内・発送	339,790
		合計	1,890,973

※5 予備費	
予備費200万円は、学生学習補助(成績優秀者表彰)に40万円、卒業記念事業費積立金に160万円を充当した。	

2007年3月31日			
(単位 円)			
資産の部	2006年度	2005年度	差異
名古屋キャンパス記念事業積立預金	10,625,000	4,710,000	5,915,000
定期預金	18,000,000	18,000,000	0
普通預金	2,580,056	5,398,079	△ 2,818,023
資産の部合計	31,205,056	28,108,079	3,096,977

負債の部			
科目	2006年度	2005年度	差異
期末未払金	668,645	20,000	648,645
計	668,645	20,000	648,645

正味財産の部			
科目	2006年度	2005年度	差異
名古屋キャンパス記念事業積立金	10,625,000	4,710,000	5,915,000
支払資金見返正味財産	19,911,411	23,378,079	△ 3,466,668
計	30,536,411	28,088,079	2,448,332
負債の部・正味財産の部合計	31,205,056	28,108,079	3,096,977

学校法人名古屋学院大学の2006年度決算および2006年度事業報告は、2007年5月23日理事会で承認されましたので概要をお知らせいたします。

なお、2006年度事業報告および2006年度計算書類は、本学ホームページに掲載されておりますので、ご参照ください。

学校法人会計は、経営の状況を見る「消費収支計算書」、資金繰りの状況を見る「資金収支計算書」および、財政の状況を見る「貸借対照表」により表示されています。この3つの計算書は相互に密接な関係があり、経営状態の良し悪しは、消費収支が均衡状態（消費収入≧消費支出）であるか否かが一つの判断基準になります。また、収入≧支出であれば資金繰りに窮することはないこととなり、それら経営状態の結果は財政の状態を表す貸借対照表上の財務比率や正味財産に影響を与えることとなります。

2006年度は名古屋キャンパス建設計画を前年度に引き続き具体化させ完成し、人間健康学部の第2期教室等改修工事についても具体化させ完成しました。学生数は新入生1,229名(学部1,162名、大学院67名)を迎えることができ、期首学生総数は4,326名(学部4,153名、大学院173名)で、前年度学生数との比較では107名の増加です。卒業生は875名(学部836名、大学院39名)を送り出し、その結果卒業生累計は35,792名(学部35,128名、大学院664名)となりました。

◆資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入、支出の内容、及び支分資金のてん末を明らかにしています。資金収支計算書には借入金収入、前受金収入等が含まれ、また、施設・設備関係支出には資産の取得額が計上されます。

'06年度資金収支の決算規模は17,726,183千円となりました。また資金繰りの状態を見る次

年度繰越支分金は3,895,189千円となり、前年度比で1,084,032千円の減額となりました。

◆消費収支計算書

消費収支計算書は、当該年度の帰属収入合計（借入金等収入は除く）から基本金組入額を控除した「消費収入」と当該年度に消費する「消費支出」を比べて当年度の「収支差額」を算出する構造となっています。これにより当年度の収支の均衡や経営状態の健全さを判断することができます。また、基本金組入額は当年度ないしは将来の施設・設備取得資金ですが、同時に永続的な教育研究活動を確保するため、及び計画的な自己資金の充実をはかるため別途留保し、消費収入、消費支出に反映させないことになっています。

'06年度消費収入の部は、帰属収入が前年度比で62,717千円の増収となっています。増収の主な要因は学生生徒等納付金、補助金、資産運用収入等によるものです。また第1号基本金に名古屋キャンパス校舎等建設資金を含めて1,777,646千円を組入れた結果、収支差額が1,360,972千円の支出超過となっています。

◆貸借対照表

貸借対照表は、期末における大学の資産額を示し、その財源が負債（借入金等）、基本金（自己資金より調達した額）、及び消費収支差額からなっていることを表わすものです。資産の部合計は23,603,295千円で前年度末比1,949,137千円の増加、負債の部合計は4,116,573千円で前年度末比1,532,464千円の増加となりました。

基本金の部合計は、前年度末比1,777,646千円増加しており、過去5か年中、最も高い組入額となっていました。

結果、本法人の'06年度末正味財産（資産の部合計-負債の部合計）は、19,486,722千円で、前年度末正味財産19,070,049千円に対して416,673千円の増加となりました。

2006(平成18)年度 決算総括表

●資金収支計算書

収入の部		'06年度決算額
科 目		
学生納付金収入	4,391,001	
手数料収入	121,441	
寄付金収入	41,420	
補助金収入	487,382	
資産運用収入	77,394	
資産売却収入	1,442,210	
事業収入	18,105	
雑収入	74,307	
借入金等収入	1,460,000	
前受金収入	1,196,338	
その他の収入	4,508,249	
資金収入調整勘定	△ 1,070,885	
前年度繰越支分資金	4,979,221	
収入の部合計	17,726,183	
支出の部		'06年度決算額
科 目		
人件費支出	2,814,025	
教育研究経費支出	1,352,583	
管理経費支出	387,124	
借入金等利息支出	6,250	
借入金等返済支出	36,500	
施設関係支出	6,992,959	
設備関係支出	500,758	
資産運用支出	1,608,388	
その他の支出	472,135	
予備費支出	0	
資金支出調整勘定	△ 339,728	
次年度繰越支分資金	3,895,189	
支出の部合計	17,726,183	

●消費収支計算書

消費収入の部		'06年度決算額
科 目		
学生納付金	4,391,001	
手数料	121,441	
寄付金	49,416	
補助金	487,382	
資産運用収入	77,394	
資産売却差額	39,504	
事業収入	18,105	
雑収入	75,565	
帰属収入合計	5,259,808	
基本金組入額合計	△ 1,777,646	
消費収入の部合計	3,482,162	
消費支出の部		'06年度決算額
科 目		
人件費	2,786,616	
(内退職給与引当額)	(87,242)	
教育研究経費	1,633,104	
(内減価償却額)	(280,521)	
管理経費	416,967	
(内減価償却額)	(29,843)	
借入金等利息	6,250	
資産処分差額	197	
予備費	0	
消費支出の部合計	4,843,134	
当年度消費支出超過額	△ 1,360,972	
前年度繰越消費支出超過額	△ 1,284,175	
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,645,147	

●貸借対照表

資産の部		本年度末	前年度末	増 減
科 目				
固定資産	19,611,318	16,532,493	3,078,825	
土地	3,604,693	2,021,932	1,582,761	
建物	10,244,444	3,472,169	6,772,275	
構築物	574,759	436,051	138,708	
機器備品	663,880	246,785	417,095	
図書	2,039,370	2,017,467	21,903	
車両	2,746	1,709	1,037	
建設仮勘定	0	1,746,100	△ 1,746,100	
その他の固定資産	2,481,426	6,590,280	△ 4,108,854	
流動資産	3,991,977	5,121,665	△ 1,129,688	
現金	3,895,189	4,979,221	△ 1,084,032	
その他の流動資産	96,788	142,444	△ 45,656	
資産の部合計	23,603,295	21,654,158	1,949,137	
負債の部		本年度末	前年度末	増 減
科 目				
固定負債	2,387,995	1,137,904	1,250,091	
長期借入金	1,277,500	0	1,277,500	
学校債	0	0	0	
退職給与引当金	1,110,495	1,137,904	△ 27,409	
流動負債	1,728,578	1,446,205	282,373	
短期借入金	146,000	0	146,000	
未払金	319,164	396,356	△ 77,192	
その他の流動負債	1,263,414	1,049,849	213,565	
負債の部合計	4,116,573	2,584,109	1,532,464	
基本金の部		本年度末	前年度末	増 減
科 目				
基本金	22,131,869	20,354,223	1,777,646	
基本金の部合計	22,131,869	20,354,223	1,777,646	
消費収支差額の部		本年度末	前年度末	増 減
科 目				
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,645,147	△ 1,284,174	△ 1,360,973	
消費収支差額の部合計	△ 2,645,147	△ 1,284,174	△ 1,360,973	
負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	23,603,295	21,654,158	1,949,137	

(単位：千円)

2006年度決算財務比率

●消費収支計算書関係 財務比率推移

No.	比率名	算式	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	高低評価	私大平均	財務比率の意味
1	学生納付金比率	学生納付金 / 帰属収入	88.1	86.5	85.2	85.6	81.3	83.5	△	72.6	学生納付金は帰属収入のなかで最大の比重を占めるものであり、各学校法人の自力財源の確保という意味では、高水準で安定的に推移するのが好ましい。
2	基本金組入率	基本金組入額 / 帰属収入	12.0	5.7	5.2	25.8	28.6	33.8	△	15.9	大学の諸活動に不可欠な資産充実のためには、基本金組入額が大きくなるとこの比率が高いことが望ましい。自己資金充実のためには、この比率が高いほど好ましい。
3	人件費比率	人件費 / 帰属収入	48.7	57.0	54.4	52.4	51.7	53.0	▼	51.3	人件費は消費支出のうち最大の部分を占めており、この比重が高いと消費支出全体を膨張させ、支出超過を招く場合もある。低いほど好ましい。
4	教育研究経費比率	教育研究経費 / 帰属収入	27.6	28.2	27.0	29.2	27.8	31.0	△	28.5	教育研究経費の帰属収入に対する割合である。教育研究活動の維持・発展のためには、消費収支を圧迫しない限りこの比率は、高いほど好ましい。
5	管理経費比率	管理経費 / 帰属収入	5.0	6.6	7.4	7.6	8.5	7.9	▼	8.5	管理経費は教育研究活動に支出された以外の経費である。学校法人の運営のため、ある程度の比率は必要だが、低いほど好ましい。

●貸借対照表関係 財務比率推移

No.	比率名	算式	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	高低評価	私大平均	財務比率の意味
1	固定資産構成比率	固定資産 / 総資産	80.8	80.7	80.7	79.3	76.3	83.1	▼	85.2	有形固定資産とその他の固定資産を合計した固定資産の総資産に占める構成割合である。この比率は流動資産構成比率とともに資産構成のバランスを全体的に見るための指標となる。資産構成の割合は、各学校法人毎に多様であるため、固定資産の内訳科目毎に分析する必要がある。低い値が良い。
2	固定負債構成比率	固定負債 / 総負債	4.8	6.2	6.1	5.5	5.3	10.1	▼	7.8	負債構成のバランス及びそれぞれの比重を評価する指標。固定負債の内容は、長期借入金、学校債、退職給与引当金等であり長期に亘って償還又は支払いを要する債務である。高い値は好ましくない。
3	自己資金構成比率	自己資金 / 総資金	88.3	87.1	87.6	88.1	88.1	82.6	△	86.4	基本金と消費収支差額を合計した自己資金の総資金に占める構成割合である。この比率は、高いほど財政的に安定しており、50%を割ると他人資金が自己資金を上回っていることを示している。高い値が良い。
4	固定比率	固定資産 / 自己資金	91.4	92.7	92.2	90.0	86.7	100.6	▼	98.7	固定資産がどの程度自己資金で賄われているかを判定する指標。100%未満であれば、固定資産は自己資金で賄われており望ましいが、100%以上であれば他人資金にも依存していることを示す。低い値が良い。
5	負債比率	総負債 / 自己資金	13.2	14.8	14.2	13.5	13.6	21.1	▼	15.8	他人資金である負債総額が自己資金を上回っていないかどうかを見る指標で、100%以下で、低いほど望ましい。
6	流動比率	流動資産 / 流動負債	281.1	287.0	303.1	322.8	354.1	230.9	△	253.0	短期的に支払を迫られる流動負債に対し、現金預金又は、短期的に現金化するところの資産の割合がどの程度かという資産流動性即ち支払能力を判定する指標。150%~200%以上が望ましい。
7	総負債比率	総負債 / 総資産	11.7	12.9	12.4	11.9	11.9	17.4	▼	13.6	総資産に対する他人資金の比重を評価する関係比率である。この比率は低いほど良く、50%を超えると負債総額が自己資金を上回っていることとなり、さらに100%を超えると負債総額が資金総額を上回る状態、いわゆる債務超過となる。

(注) 1.私大平均は、日本私立学校振興・共済事業団「平成18年度版今日の私学財政」の大学法人(医歯系法人を除く)の平均値 2.高低評価も同資料による △高い値が良い ▼低い値が良い 3.総資金=負債+基本金+消費収支差額 4.自己資金=基本金+消費収支差額

◆財務情報の公開について

2006年度決算関係書類(財産目録・貸借対照表・収支計算書・監事及び独立監査法人による監査報告書・事業報告書)及び2007年度予算書類・事業計画書は、財務課にて縦覧できます。

## 充実の施設 瀬戸キャンパス 人間健康学部

人間健康学部では高度で幅広い専門知識や技能を身につけるための実習施設を充実いたしました。最先端の設備で健康な社会づくりに貢献する実践力を養います。

その他施設：社会心理学実験室、知覚・認知実験室、面接室、福祉実習室、トレーニング室、日常生活活動実習室、水治療実習室、物理療法学実習室、義肢装具実習室、基礎医学実験室、解剖学実習室

プレイルーム・観察室



運動学実習室



運動療法学実習室



## 大学祭 盛大に開催

第43回名学大祭(大学祭クラブ代表 鱧和寛さん・経済学部3年)が11月3日(土)4日(日)に開催されました。名古屋キャンパスにおいて初の開催で、今年度のテーマは「絆〜Echizenasing〜」。大学祭を通じて来場者、地域、企業、団体、学生との「絆」をつくることを目標に掲げました。また、全国初の試みとなる「ゴミ箱ゼロの大学祭」を実現。廃油の回収、ミシコンポストの運用など3R(リユース・リデュース・リサイクル)の工夫を

凝らし、会場にはリユース・リサイクルコーナーを設置、リユース食器や生ゴミなどの回収を行いました。愛・地球博でおなじみのモリゾー、キッコロも登場、エコ市民フォーラムも実施され、会場は大いに盛り上がりました。4日(日)には第16回ホームカミングデーも開催されるなど連日賑わいを見せ、多くの学生のみならずご父母、教職員、同窓生のみならず、地域のみなさんのご協力で大成功のうちに終わりました。



エコ大学祭「ゴミ箱ゼロ」を実現



ミシコンポストづくり



マイ箸づくり



エコ市民フォーラム：パネルディスカッションの様子



リユース食器の回収

第10回高校生英語スピーチコンテストを開催

本学の高校生向けイベント「高校生英語スピーチコンテスト」が10月7日(日)に名古屋キャンパス白鳥学舎で開催されました。

応募のあったみなさんの英語レベルは非常に高く、日頃から熱心に英語に取り組まれていることが感じられました。下記の高校生のみなさんが入賞されました。



	氏名	高校名	学年
特別優秀賞	水越 ジェマディー	私立名古屋女子大学高等学校	1年
	山田 沙織	私立清林館高等学校	2年
優秀賞	青山 魅香	愛知県立刈谷北高等学校	3年
	高島 伶奈	私立神戸女学院高等学校	1年
佳作	速水 依里子	私立名古屋経済大学高蔵高等学校	2年
	ラジェシ・クマル・チエテリ	私立国際開洋第一高等学校	3年

2007年11月~2008年3月 行事予定

11月

- 3日(土) 第43回大学祭 [~4日(日)まで]
- 4日(日) ホームカミングデー<同窓会主催>
- 5日(月) シティ・カレッジ「キリスト教における生と死」 [~11月26日(月)まで]
- 7日(水) 公開講演会(外国語学部)  
TOEFL-ITP [国際交流センター]
- 10日(土) 一般推薦入試/スポーツ推薦入試(前期)
- 11日(日) 一般推薦入試/特別指定校推薦入試
- 21日(水) スピーチコンテスト<英語・中国語>
- 25日(日) 中国語検定 [学術情報センター]
- 28日(水) 学生大会 [体育会主催]

第50回NGUチャペルコンサート  
[キリスト教センター]

12月

- 1日(土) 自己推薦AO入試(1期)/特別自己推薦AO入試(1期)
- 5日(水) TOEFL-ITP [国際交流センター]
- 12日(水) TOEIC [学術情報センター]
- 18日(火) クリスマスチャペル [キリスト教センター]
- 21日(金) クリスマスチャペル [キリスト教センター]  
秋学期授業終了 [冬季休暇~1月6日(日)]

リーダーシップキャンプ [体育会・文化会]  
学生部長表彰 [学生課]  
秋季献血運動 [体育会主催]  
留学生別科秋学期修了式  
第51回NGUチャペルコンサート  
[キリスト教センター]  
大学クリスマス礼拝 [キリスト教センター]

2008年1月

- 7日(月) 秋学期授業再開
- 11日(金) 卒業論文提出期限
- 12日(土) 大学院修士論文提出期限
- 22日(火) 秋学期定期試験 [~28日(月)まで]
- 28日(月) 秋学期授業終了  
大学院秋学期授業終了
- 31日(木) 自己推薦AO入試(2期)/特別入試  
[外国人留学生・海外帰国生徒・社会人(後期)]  
スポーツ推薦入試(後期日程)/編入学試験  
(指定校後期・一般後期)

2月

- 1日(金) 一般入学試験(前期) [~3日(日)]
- 6日(水) TOEFL-ITP [国際交流センター]
- 7日(木) 集中講義 [~27日(水)]
- 10日(日) 大学院入試(博士前期課程2期) [経営政策専攻]
- 11日(祝) 大学院入試(修士課程2期)  
[経済学専攻 英語学専攻 中国語学専攻]  
大学院入試(修士課程2期)/  
(博士後期課程) [経営政策専攻]
- 26日(火) 一般入学試験(後期A日程)  
特別指定校推薦入試(後期A日程)  
特別自己推薦AO入試(2期)

インターンシップ [キャリアセンター]  
会社説明会 [キャリアセンター]  
短期/中期留学実施 [~3月]

3月

- 5日(水) TOEFL-ITP [国際交流センター]
- 7日(金) 卒業確定者公示
- 10日(月) 一般入学試験(後期B日程)/特別指定校推薦入試(後期B日程)
- 14日(金) 学位記授与式・修了式
- 31日(月) 秋学期終了

学長表彰 [学生課]

TOEFL Committee of Examiners の一員に

外国語学部の佐々木みゆき教授がTOEFL Committee of Examiners (COE:顧問審査委員会)の一員に選ばれました。COEはETS\*の付託を受け、TOEFLの現状と今後についてアドバイスする委員会で、世界中の応用言語学研究者の中から12名のメンバーが選出されます。任期は4年で年2回定例会議があり、日本人としては初めての就任です。



外国語学部教授  
佐々木みゆき

\*ETS: Educational Testing Service アメリカに本部を置く世界最大の教育測定機関。北米の大学や大学院入試にあたるSAT、GREや、北米留学に必要なTOEFL、国際語としての英語力を測るTOEIC等を開発している。

下 和弘



所属部署  
人間健康学部  
リハビリテーション学科  
趣味  
読書、カラオケ  
学生へのメッセージ  
良い仲間を見つけ、幅広い教養を身につけてください。

2007年度 新任者紹介

2007年度文部科学省  
現代GP選定記念

キックオフ・シンポジウム

「名古屋大都市圏の交流・連携の将来を展望する  
—大学の役割 地域の役割—」

日時  
12月22日(土) 13:30~16:40  
<13:00開場/13:30開演>

会場  
名古屋学院大学  
名古屋キャンパス白鳥学舎

◆基調講演:矢作 弘氏  
(大阪市立大学大学院教授)  
◆名古屋学院大学の地域貢献の提案  
◆トークセッション

2007年度文部科学省 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に本学の「地域創成プログラム」の実践が選定されたのを記念して左記のとおりキックオフ・シンポジウムを開催いたします。みなさま奮ってご参加ください。

現代GP選定記念シンポジウムを開催



学校法人 **名古屋学院大学**

発行日■2007年11月20日

編集■名古屋学院大学 総合政策部

発行者■名古屋学院大学

名古屋市熱田区熱田西町1番25号 〒456-8612

TEL 052-678-4085

本学の情報はホームページでもご覧いただけます

<http://www.ngu.jp/> E-mail: [upr@ngu.ac.jp](mailto:upr@ngu.ac.jp)